

## いわて景気ウォッチャー調査

平成30年1月調査



当研究所では昨年10月に続き「いわて景気ウォッチャー調査」を実施した。

東日本大震災からの復興工事が終盤を迎えるなか、秋サケやサンマが記録的な不漁となり、水産加工業者を中心に広く深刻な影響を及ぼした。このような状況下で県内の景気ウォッチャーはいかなる景況判断をしているのか、前回調査と比較し分析した。

景気の現状および先行きの判断指数（DI）の推移をグラフ化し、全国調査と比較すると図表1のようになる。

なお、本調査が別掲の「岩手県内企業景況調査」と異なるところは、県内経済の第一線で働く方々の「実感」を聴取している点である。

## 〈調査結果の要約〉

現状判断は7期連続で50を下回る

3カ月前と比較した県内の景気の現状判断指数は、46・3と前回（44・3）に比べ2・0ポイント上昇したものの、景況感の分かれ目とされる50を7期連続で下回った。求人への堅調さなどが判断指数を押し上げたものの、食料品や燃料などの値上りから消費の低迷が続いており、県内の景気ウォッチャーは引き続き景気の動きが弱いと感じている。

分野別にみると家計関連指数は41・7（前回比0・4ポイント上昇）、企業関連指数は53・1（同3・1ポイント上昇）、雇用関連指数は65・6（同12・5ポイント上昇）となった。

地域別では、県北地域で50を上回り、県央、県南、沿岸地域では50を下回った。

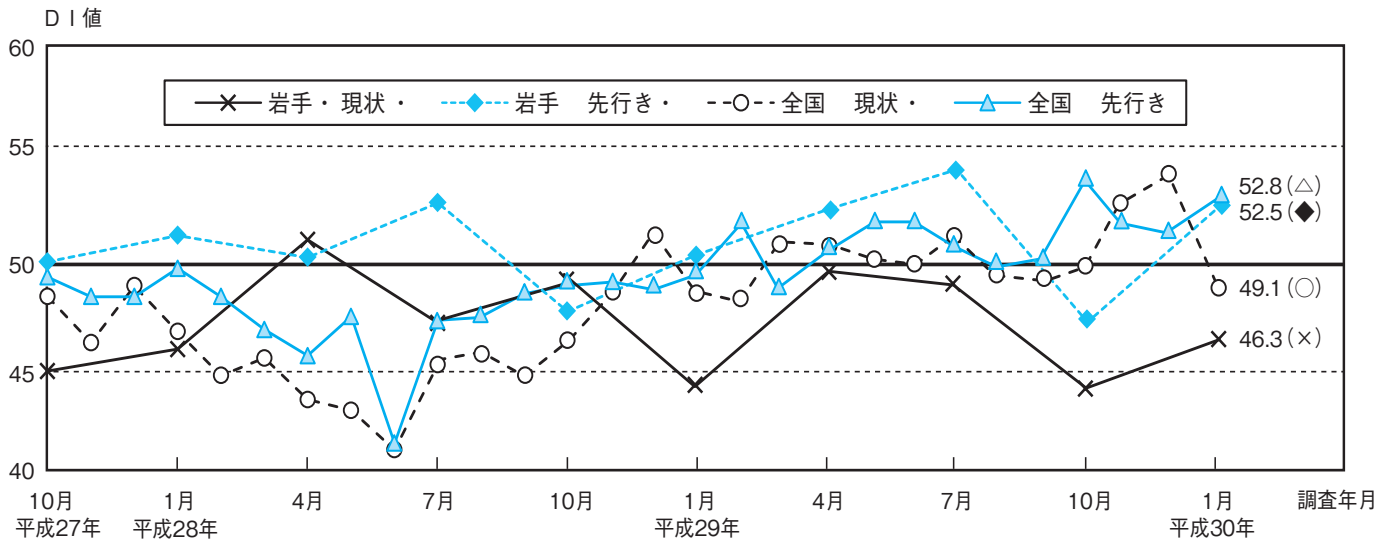
先行き判断は2期ぶりに50を上回る

2～3カ月前の県内の景気の先行き判断指数は52・5と前回（47・8）に比べ4・7ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回った。春には食料品などの値上りがピークを過ぎ、消費が上向くことへの期待が強まった。

分野別にみると家計関連指数は50・4（同5・1ポイント上昇）、企業関連指数は55・2（同3・1ポイント上昇）、雇用関連指数は62・5（同6・2ポイント上昇）といずれも前回を上回った。

地域別では、県央、県南、沿岸地域で50を上回り、県北地域は50を下回った。

図表1 景気の状態・先行き判断指数(DI)の推移



調査要領

1. 調査内容

- (1) 景気の状態に対する判断
- (2) (1)の理由及び具体的状況の説明
- (3) 景気の先行きに対する判断
- (4) (3)の理由

※(1)、(3)は5段階評価による回答とする。

2. 調査時期

平成30年1月

3. 調査対象者・方法

県内の景気の動きを敏感に観察できる立場の方々110名への郵送、電話による聴取(図表2、3)。

4. 回収状況

有効回答数 101件  
回収率 91・8%

5. 指数(DI値)の算出方法

5段階の判断に、それぞれ図表4のとおり点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じてDI値(Diffusion Index)を算出する。DI値は50を目安としており、50を上回っていれば景気の上昇局面、下回っていれば下降局面と判断する。

図表3 調査対象者の分野・業種

| 分野(調査対象者数)  | 調査対象者の代表的な業種                   |
|-------------|--------------------------------|
| 家計関連(76名)   |                                |
| 小売関連(30名)   | 百貨店、スーパー、コンビニ、一般小売店、自動車販売など    |
| 飲食関連(16名)   | 飲食店、割烹・料理店、スナック、外食チェーンなど       |
| サービス関連(22名) | ホテル・旅館、クリーニング店、ガソリンスタンド、タクシーなど |
| 住宅関連(8名)    | 建設設計事務所、不動産販売、住宅販売など           |
| 企業関連(24名)   | 製造業、広告代理店、運輸業、農林水産業など          |
| 雇用関連(10名)   | 人材派遣、学校就業関係者、求人広告など            |

図表2 調査対象地域の区分

| 地域(調査対象者数) | 市町村                                     |
|------------|---|
| 県央地域(39名)  | 盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町        |
| 県南地域(42名)  | 花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、西和賀町、金ケ崎町、平泉町       |
| 沿岸地域(19名)  | 宮古市、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町、山田町、岩泉町、田野畑村 |
| 県北地域(10名)  | 久慈市、二戸市、普代村、軽米町、野田村、九戸村、洋野町、一戸町         |

図表4 指数(DI値)点数表

| 回答区分 | 良くなっている | やや良くなっている | 変わらない | やや悪くなっている | 悪くなっている |
|------|---------|-----------|-------|-----------|---------|
| 点数   | +1.00   | +0.75     | +0.50 | +0.25     | 0.00    |

1 県全体の状況

(1) 現状判断

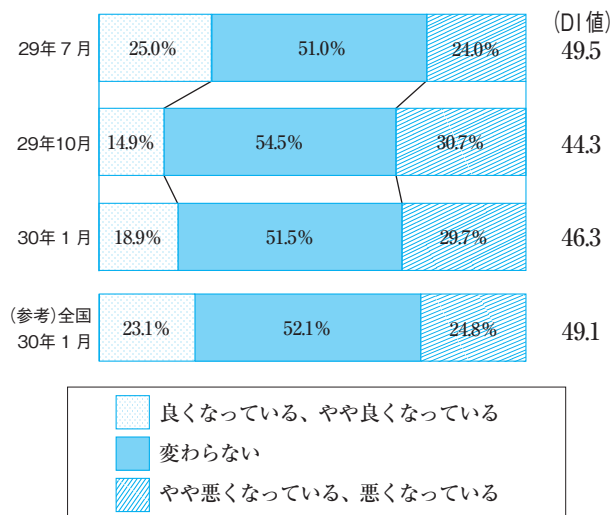
県内の景気の現状判断指数は46・3と前回(44・3)に比べ2・0ポイント上昇したものの、景況感の分かれ目とされる50を7期(21カ月)連続で下回った。求人への堅調さなどが判断指数を押し上げたものの、食料品や燃料の値上げなどから消費の低迷が続いており、県内の景気ウォッチャーは景気の動きが引き続き弱いと感じている(図表5)。

回答構成比は「良くなっている」「やや良く

図表5 景気の現状判断指数(DI)の内訳

| 分野     | 29年7月 | 29年10月 | 30年1月 | 増減    |
|--------|-------|--------|-------|-------|
| 合計     | 49.5  | 44.3   | 46.3  | 2.0   |
| 家計関連   | 47.1  | 41.3   | 41.7  | 0.4   |
| 小売関連   | 48.1  | 38.4   | 39.3  | 0.9   |
| 飲食関連   | 41.7  | 37.5   | 41.7  | 4.2   |
| サービス関連 | 46.4  | 42.9   | 39.3  | △ 3.6 |
| 住宅関連   | 53.1  | 53.1   | 56.3  | 3.2   |
| 企業関連   | 56.3  | 50.0   | 53.1  | 3.1   |
| 雇用関連   | 50.0  | 53.1   | 65.6  | 12.5  |

図表6 回答構成比(現状判断)



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

なっている」が18・9%(前回14・9%)と増加した一方、「変わらない」は51・5%(同54・5%)、「やや悪くなっている」「悪くなっている」は29・7%(同30・7%)と減少した(図表6)。

分野別にみると、家計関連指数は41・7と前回(41・3)から0・4ポイント上昇した。内訳は小売、飲食、住宅関連は前を上回り、サービス関連のみが前を下回った。「東芝メモリ関連で業務用地、賃貸物件ともに需要増加の兆しがある(県南・不動産取引業)」との回答があった一方で、「ガソリンや野菜の値上がりで消費に対する意欲が低迷している(県南・貸衣装業)」、「不漁により水産物の荷動きが低調(沿岸・ガソリンスタンド)」と食料品や燃料の

値上がりに加え、不漁による景気の低迷を指摘する回答があった。

企業関連指数は53・1と前回(50・0)に比べ3・1ポイント上昇した。「半導体の需要が拡大しており、設備投資も積極的である(県南・機械部品製造業)」と、製造業からは堅調な受注を示す回答があった。

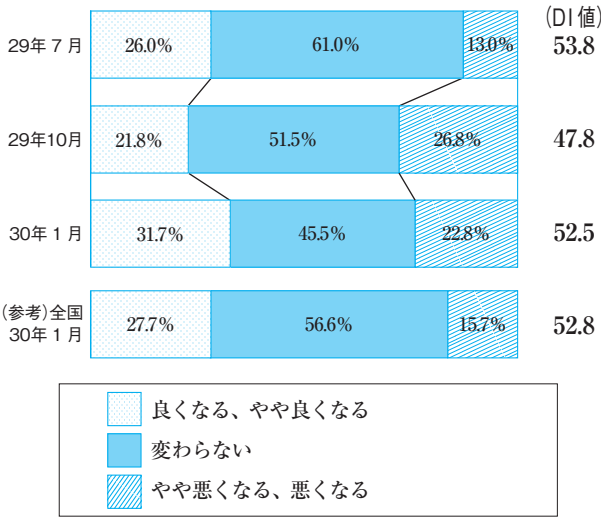
雇用関連指数は65・6と前回(53・1)に比べ12・5ポイント上昇した。「県外の企業を中心に求人の問い合わせが続いている(沿岸・学校就業担当)」と引き続き雇用情勢は改善しているなかで、県外企業からの求人の増加による影響が大きいと指摘する回答がみられた。

(2) 先行き見通し

県内の景気の先行き判断指数は、52・5と前回(47・8)に比べ4・7ポイント上昇し、2期ぶりに50を上回った。回答構成比は「良くなる」「やや良くなる」が31・7%(前回21・8%)と増加し、「変わらない」が45・5%(同51・5%)、「やや悪くなる」「悪くなる」が22・8%(同26・8%)と減少した(図表7、8)。

「原油価格の上昇に伴って、資材が値上がりする懸念がある(県北・建設業)」と警戒する回答がある一方、「暖かくなれば野菜の出回りが増え、食料品の価格も落ち着くとみられる(県央・飲食業)」と春には食料品などの値上がりがピークを過ぎ、消費が上向くことへの期待も強まった。

図表8 回答構成比（先行き見通し）



(注) 単位未満四捨五入につき合計が100%とならない場合がある

図表7 景気の先行き判断指数(DI)の内訳

| 分野     | 29年7月 | 29年10月 | 30年1月 | 増減   |
|--------|-------|--------|-------|------|
| 合計     | 53.8  | 47.8   | 52.5  | 4.7  |
| 家計関連   | 51.5  | 45.3   | 50.4  | 5.1  |
| 小売関連   | 49.1  | 42.9   | 42.9  | 0.0  |
| 飲食関連   | 60.4  | 56.3   | 60.4  | 4.1  |
| サービス関連 | 50.0  | 39.3   | 50.0  | 10.7 |
| 住宅関連   | 50.0  | 53.1   | 62.5  | 9.4  |
| 企業関連   | 58.3  | 52.1   | 55.2  | 3.1  |
| 雇用関連   | 59.4  | 56.3   | 62.5  | 6.2  |

## 2 地域別の状況

分野別では、家計関連指数が50・4（同45・3）、企業関連指数は55・2（同52・1）、雇用関連指数は62・5（同56・3）といずれも前回を上回った。

地域別では、現状は県北地域で50を上回り、県央、県南、沿岸地域では50を下回った。一方、先行きでは県央、県南、沿岸地域で50を上回り、県北地域は50を下回った。（図表9）。

個々の地域でみると、県央地域は現状が41・2となり4地域内で最も低かった。「葉物野菜の高騰が続いていることで、消費者は買い控えている様子である（青果物卸売業）」と、天候不順の影響で青果物の高値が続いたことにより消費意欲が好転しないと指摘する回答があった。

県南地域は現状が49・3、先行きが53・4となった。「東芝メモリや関連企業の誘致が進むことにより賃金の上昇が期待される（税理士）」と企業誘致の進展による所得の向上に期待する回答があった。

沿岸地域は現状が47・1、先行きが50・0となった。「復興工事の関係者が減少し、良い手ごたえがない（食料品小売業）」と復興工事が終盤を迎えたことで、需要が一段と落ち込んでいる様子が伺えた。

県北地域は現状が52・5、先行きは47・5となった。「ファストフード店が撤退したほか、

商店街の老舗店も閉店するようだ（飲食業）」と地元商店街の縮小を懸念する声が聞かれた。

（研究員 青木 俊一）

図表9 地域別の景気判断指数(DI)

| 地域   | 景気の現状判断指数 (DI) |        |       |       | 景気の先行き判断指数 (DI) |        |       |     |
|------|----------------|--------|-------|-------|-----------------|--------|-------|-----|
|      | 29年7月          | 29年10月 | 30年1月 | 増減    | 29年7月           | 29年10月 | 30年1月 | 増減  |
| 合計   | 49.5           | 44.3   | 46.3  | 2.0   | 53.8            | 47.8   | 52.5  | 4.7 |
| 県央地域 | 46.5           | 41.7   | 41.2  | △ 0.5 | 52.8            | 47.9   | 54.1  | 6.2 |
| 県南地域 | 53.5           | 48.6   | 49.3  | 0.7   | 56.9            | 47.3   | 53.4  | 6.1 |
| 沿岸地域 | 50.0           | 41.7   | 47.1  | 5.4   | 50.0            | 48.6   | 50.0  | 1.4 |
| 県北地域 | 45.0           | 42.5   | 52.5  | 10.0  | 52.5            | 47.5   | 47.5  | 0.0 |



## 【景気ウォッチャーの主なコメント】

|   | 分野       | 判断  | 判断の理由   |
|---|----------|-----|---|
| 現 | 家計<br>関連 | やや良 | 年末、年始は多くの方が街に出歩いている様子だった。また、積雪が多かったこともあり利用客は増加した。(県央：タクシー業)                           |
|   |          | やや良 | 東芝メモリの新工場建設に関連する業務用地や賃貸物件に需要増加の兆しがみられる。(県南：不動産取引業)                                    |
|   |          | 不変  | 値上りにより葉物野菜やサケなどの動きが良くないが、その分消費者は比較的安価な商品を代替品として購入しており、売上げに変化はみられない。(沿岸：大型小売業)         |
|   |          | 不変  | 忘・新年会等で一定の来客数がみられた。来店客の滞在時間は長時間化しているものの、注文数が増えないため売上げに変化がない。2次会なども減っている様子である。(県央：飲食業) |
|   |          | 不変  | 昨年10月からの賃上げにより徐々に消費マインドが改善することを期待していたものの、変化がみられない。(県北：クリーニング業)                        |
|   |          | やや悪 | 天候不順により葉物野菜を中心に青果物の高騰が続いていることで消費者は買い控えている様子であり、売上の不振が続いている。(県央：青果物卸売業)                |
|   |          | やや悪 | 復興需要のピークアウトに加え、サンマやサケ、イカなどの不漁により水産物の荷動きが低調に推移しておりトラックの台数が少ない。(沿岸：ガソリンスタンド)            |
|   |          | やや悪 | 野菜やガソリンなど特に身近な商品が値上りしているため、消費に対する意欲は低迷していると感じる。(県南：貸衣装業)                              |
| 状 | 企業<br>関連 | 良   | IT高度情報化社会の到来で半導体の需要が拡大しており、半導体製造装置の設備投資も積極的に進めている。(県南：電子部品製造業)                        |
|   |          | 不変  | 現状では売上に変化がないものの、病院や老人ホームなどから設備投資とみられる受注が増えている。(県央：情報通信業)                              |
|   |          | 悪   | 野菜が品薄で値上りしているため梱包材の動きが良くない。1月は売上げが落込みやすいが今年は特に不調である。(県央：食品包材製造業)                      |
|   | 雇用<br>関連 | 良   | 定年で退職者が増加するなか、少子化の影響で人員の充足が進んでいない企業が多い様子である。特に県外企業を中心に求人の問い合わせが続いている。(沿岸：学校就業担当)      |
|   |          | やや良 | 県内企業からの求人広告数が横ばいで推移する一方、首都圏の企業からは個人事業主向けの業務委託形式による広告が増加している。(県央：新聞求人広告)               |
|   |          | 不変  | 新卒に対する求人数に変化はない。求人倍率は高いものの、非正規雇用の求人がほとんどを占めている。(県央：学校就業担当)                            |

|   | 分野       | 判断  | 判断の理由  |
|---|----------|-----|--|
| 先 | 家計<br>関連 | やや良 | 賃貸物件については前年並みかやや減少を見込んでいるが、売買物件については低金利により堅調な推移が続くと思われる。(県南：不動産取引業)                            |
|   |          | やや良 | 暖くなれば野菜の出回りが増えることで、食料品の価格も落ち着くのではないか。レジャーや外食の増加、転勤などによる人の動きにも期待したい。(県央：飲食業)                    |
|   |          | やや良 | フランチャイザーのブランド統合により来店客数、売上ともに増加している。この状況はしばらく続くと見込んでいる。(県南：コンビニエンスストア)                          |
|   |          | 不変  | 復興需要はすでに過去のものとなり、事業環境に変化がないことから現状の厳しい状況が続くと思う。今後の対応策に期待したい。(沿岸：観光事業)                           |
|   |          | 不変  | 春は新生活の準備で売上げの増加が見込める時期だが、復興需要の減少を考慮すると今年はあまり期待できそうにない。(県南：家具建具卸売業)                             |
|   |          | やや悪 | 人口の流出や復興工事関係者の減少により景気により手ごたえはない。全国的な景気の上昇傾向とは一線を画す状況が当分続くだろう。(沿岸：食料品小売業)                       |
|   |          | やや悪 | 今後も燃料関係を中心とした値上げが懸念される。さらに米の不作による影響なども心配している。(県央：米麦卸業)   |
|   |          | やや悪 | ファストフード店が撤退したほか、商店街の老舗店も閉店するとのことであり商店街が寂しくなっていく。(県北：飲食業)                                       |
| 行 | 企業<br>関連 | 良   | 来期は受注件数の増加が期待される。従業員の採用状況も順調であり増収を見込んでいる。(県南：機械部品製造業)  |
|   |          | やや良 | 今後は東芝メモリや関連企業の誘致が進むことによる賃金の上昇が期待される。これに伴い転職の動きが強まり、企業間で労働力の確保に向けた取組みが活発になるのではないか。(県南：税理士)      |
|   |          | やや悪 | 復興工事が落ち着いたことで、今後の発注の見通しがはっきりしない状況。原油価格の上昇が続いており、その影響により資材が値上りしないか心配している。(県北：建設業)               |
| き | 雇用<br>関連 | やや良 | 企業は来年度の採用活動に積極的であり、インターンシップの案内が例年よりも多くなっている。採用の開始は6月からだが、少しでも早く学生を確保したいとの思いが強まっている。(県央：学校就業担当) |
|   |          | やや良 | 希望する勤務エリアについて企業が柔軟に対応するなど、依然として売り手市場が続いており、今後も求人活動は活発化すると思われる。(県南：学校就業担当)                      |
|   |          | やや悪 | 求人のニーズは景気の改善ではなく若手の人手不足によるものとなっている。人口の流出や水産資源の減少などによる今後の影響が心配。(沿岸：学校就業担当)                      |